

## 現行計画

### 「社会資本整備事業の重点的、 効果的かつ効率的な実施」

#### 1. 事業評価の厳格な実施

- 新規事業採択時、再評価、完了後の事後評価の一貫した事業評価システムにより、効果的かつ効率的な事業実施の確保。
- 完了後の事後評価結果を評価手法の見直し等に反映。

#### 2. 技術開発等を通じたコストの縮減・ 事業の迅速化

- コストの観点から公共事業の全てのプロセスを見直すコスト構造改革を推進。
- 計画期間中に、平成14年度と比較して、15%の総合コスト縮減率を達成する。

#### 3. 地域住民等の理解と協力の確保

- 構想段階における住民参加手続きの実施を促すためのプロセスの導入。

#### 4. 公共工事の入札及び契約の適正化

- 入札及び契約の透明性・競争性の向上、不正行為の排除の徹底、公共工事の適正な施行の確保を推進。
- 総合評価落札方式等により民間技術を活用し技術力による競争を一層推進。

## 次期計画

### 「VFM最大化を目指した 社会資本整備事業の実施」

VFMが最大となるように、社会資本整備の全ての段階を通じて、重点的、効果的かつ効率的な取り組みを実施する。

#### 1. 事業評価の厳格な実施

- 環境負荷低減等の貨幣価値原単位の設定、CVMの適切な運用方法、人命価値の評価手法等の検討による、評価手法のさらなる充実。
- 評価手法のさらなる高度化に向けて、完了後の事後評価結果の一層の活用。

#### 2. コスト構造改革の一層の推進

- アセットマネジメントの導入によるライフサイクルコストの最小化。
- コスト換算が難しい施策の進捗を分かりやすく、明確化。
- 民間の技術開発の促進と活用

#### 3. 国民の理解と協力、信頼の確保

- 構想段階の計画検討プロセス(手続き、評価方法等)の充実。
- アカウントビリティ向上に向けた取り組みの推進。

#### 4. 公共調達改革

- 一般競争入札と総合評価方式を標準とした新しい建設生産システムへの転換。  
(工事成績や総合評価落札方式における技術提案等、企業の技術力や努力を受注者選定等に適切に反映。)